

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回児童発達支援センター運営協議会
開 催 日 時	令和6年3月8日(金) 午後1時30分 開会 午後3時00分 閉会
開 催 場 所	健康福祉センター 3階 301会議室
議 長 氏 名	越智恵子
出席委員(者)氏名	越智恵子 平岡知子 野口節子 新井豊吉 池田拓 並木範一 桂川泰典 関剛規 清水繁 山川さおり 宮澤聖二
欠席委員(者)氏名	茂木陽 今泉大二郎 吉野隆昭 神山菊枝
説明者の職氏名	国立障害者リハビリテーションセンター学院 関 剛規
会 議 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 次期計画に関する課題抽出(グループワーク) 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・次第 ・令和6年度事業計画 ・本日のグループワーク資料
事務局職員職氏名	【こども支援部】部長 齋藤忠士 次長 守屋俊久 【こども支援課】課長 半田英樹 副主幹 青木三千代 主査 雨間元良 主査 松本珠美 指導主事 大館信浩
関係課職員氏名	【こども政策室】室長 園田智滋 【こども支援課】主幹 根本 章 【学校教育課】 副参事 岡崎公伸
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

- 1 下記の議題について関委員から説明し、グループワークを行った。
 - (1) 次期計画に関する課題抽出(グループワーク)

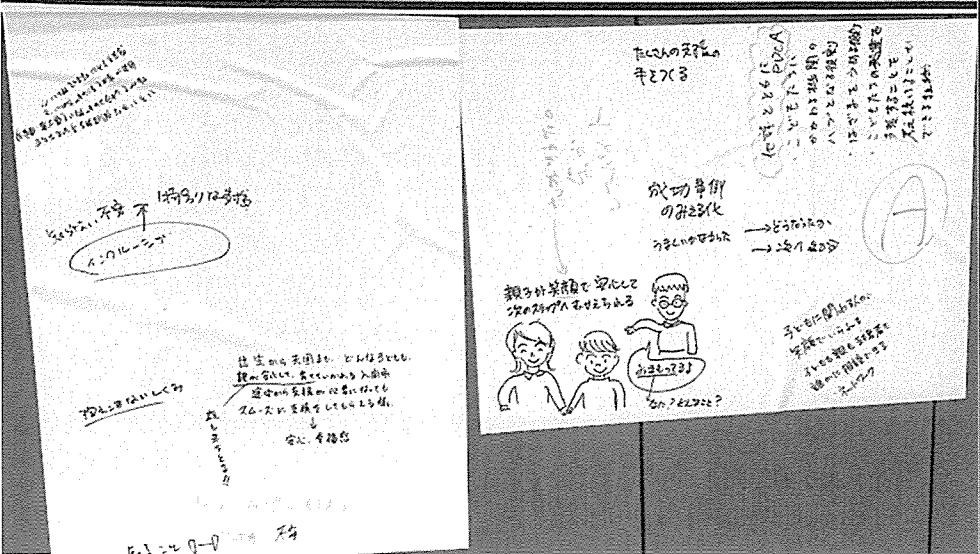
会 議 録 (3)

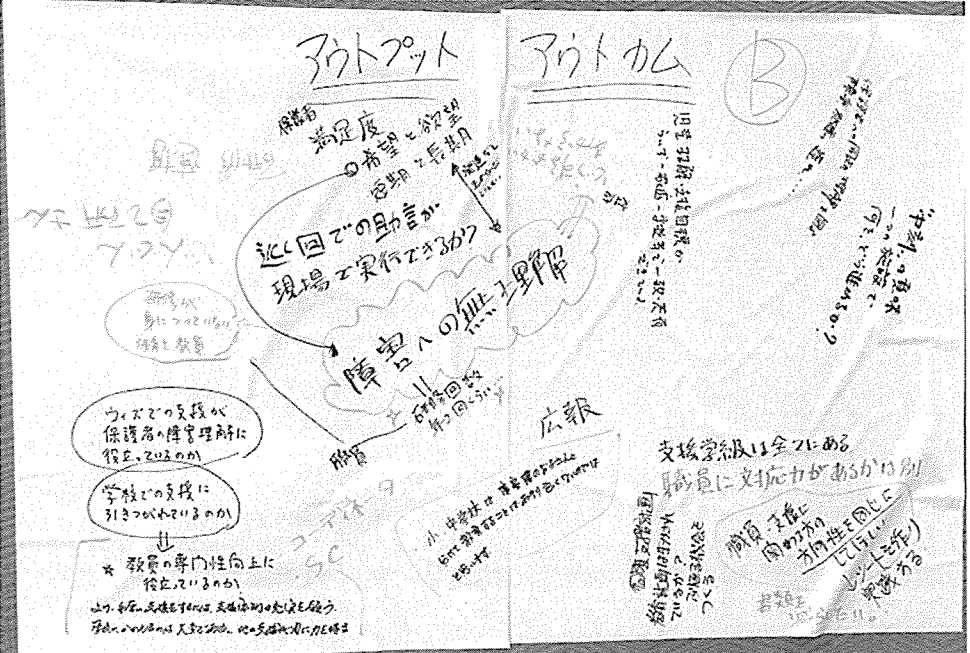
発 言 者	発 言 内 容
事務局	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する) 令和5年度第3回児童発達支援センター運営協議会を開会いたします。 本日の運営協議会の議題としては、「次期計画に関する課題抽出(グループワーク)」を予定しております。グループワークの進行は、関委員にお願いします。また、今回のグループワークにご協力いただくため、関委員が参加されている厚生労働省障害者政策総合研究事業の北澤様、中澤様が関係者として出席されます。本会の内容と関係者のご参加に当たっては、事前に会長の承諾を得ています。グループワークの内容や方法については、会長のごあいさつの後、関委員より説明いただきます。それでは、会長からごあいさつをお願いいたします。
越智会長	皆さんこんにちは。今日は関委員の方でグループワークを計画していただいているので、皆さん率直にいろんな意見を出し合って、次へつなげられたら良いと思います。どうぞよろしくお願いします。
事務局	ありがとうございました。ここからの議事進行は、児童発達支援センター運営協議会条例第6条第1項の規定により、越智会長が議長となり進行していただきますようお願いいたします。
越智会長	それでは議事を進めさせていただきます。初めに、会議の成立について確認します。本日は、11名の委員にご出席頂いております。入間市児童発達支援センター運営協議会条例第6条第2項の規定によりまして、本日の会議は成立しております。傍聴人がいましたら入室をお願いします。
事務局	はい。本日の会議につきましては、傍聴希望者はありませんでした。
越智会長	会議録の署名については、名簿順となっております。今回は山川委員にお願いしたいと思います。
委員全員	(異議なし)
越智会長	これより議事に入ります。 議題(1)次期計画に関する課題抽出(グループワーク)を行いたいと思います。関委員より説明をお願いします。

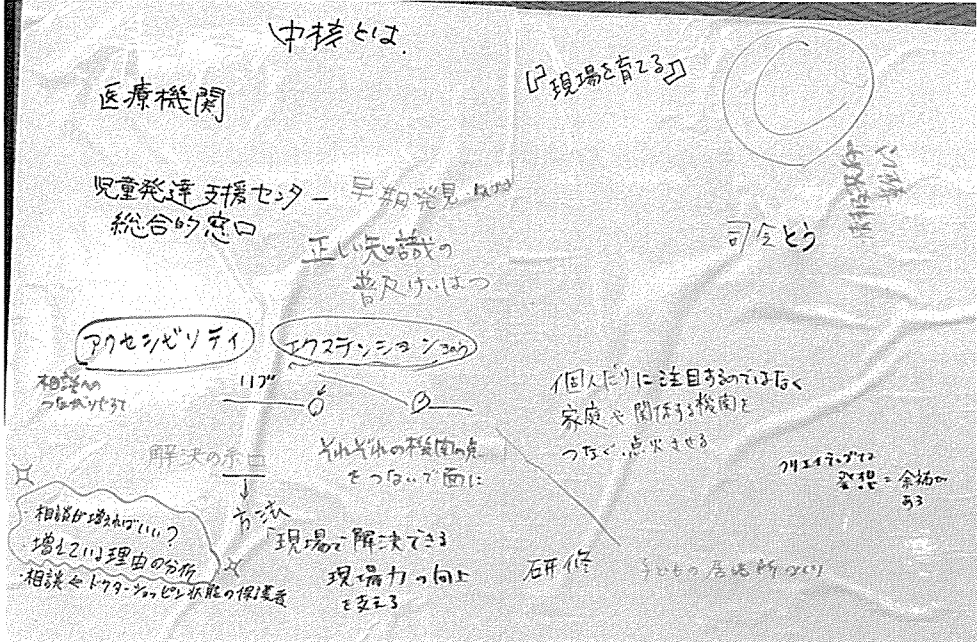
発 言 者	発 言 内 容
関委員	国立障害者リハビリテーションセンター学院の関です。今日は、一番お伝えしたいのはこども支援課の職員をみんなで援助しようということです。ここに集まっている委員の方々はそれぞれの専門の方々なので、その方々のご意見をいただくというのが主旨です。テーマは、「ういずの中核機能って何だろう。」です。事務局の方から、3月にグループワークの依頼があり、私が今研究しているのも同じようなテーマでしたので、補助として中澤さんと北澤さんにお越しいただいています。中澤さんと北澤さんと私はホスト役で、各グループにおりますので、何か困ったことがあったら、お声掛けいただければと思います。キーワードとしては、障害福祉計画です。お手元の資料を見ていただければと思いますが、資料の2ページにういずに関するところだけを抽出してきました。国も、都道府県も、市町村も障害福祉計画を計画的に進めていかななくてはならないことになっています。現時点で全国に1,718市町村があり埼玉県だけでも63市町村あります。そこに対して国は資料1ページ分しか示してないです。後はそれぞれの市町村で、「頑張って作っていった。」という話なのです。全国に1,700も自治体があるので、全国一律ではなくそれぞれの事情に合わせて作るということです。それを組むのは本庁の人だけでは無理なので、運営協議会で様々なご意見いただく事はとても大事なことだと思います。主な事項って書いてありますが、1番目の「児童発達支援センターの機能強化と地域の体制整備」は、実施中です。次の「児童発達支援センターの設置」については、既に設置されています。他の相談件数や利用者数の把握も頑張ってやっています。これで終わりなのです。これをやると言われれば事務官は多分さっと作ってまとめます。これに対して疑問を提しているのが今回の我々が研究している部分です。1人勉強では、とても無理です。参考で横浜市の実情を入れました。横浜市は、人口や年間出生数、職員数の規模が違います。行政職もたくさんいて、いろいろ細かく分けています。ただし、規模が大きければ良いというものではなく、それでも拾いきれない事例や組織間の調整などに課題があり、少なくとも入間市は入

発 言 者	発 言 内 容
	間市で作らないといけない。様々な文献等を調べていて、大切だと思うのは、「一人で抱えない」ということです。本庁の人が一人で抱えずに、計画の段階から現場の方々、家族、親御さんも含めて入って一緒に考えていくのが、効率がいいと思います。総務省も言っているのは、新しいことはうまくいかないこともあるし、目標って達成しないこともあります。そこを皆さんでモニターしていきたいと思います。この後、委員の皆さんにやっていただくのは、資料の4, 5 ページに書いてある「インプット、活動、アウトプット、アウトカム」です。入間市は、相談支援で相当頑張って相談件数を増やしています。コロナで減少したりしていますが、人を配置しています。それは、「インプット」にあたり、お金や場所を出しています。「活動」としてはいろんな相談支援をして、「アウトプット」にあたるのが件数で、分類もしています。ここで大体終わりです。ここで終わると何が起こるかかわからないので、この次の「アウトカム」と言われる所で、相談件数が上がれば、引き継ぎの件数が上がって「保育園・幼稚園のことが小学校にちゃんと引き継ぎをされていくということが増えました。」とか、「不登校の数がぐっと減りました。」とか。そこまで考える計画を立てないと、何のために行う相談か分からない。もしかすると相談数が下がった方が、保育園・幼稚園で行う相談で済んでいることがあるかもしれない。困ったら全部ういずに相談となると、ういずの職員を増やそうかって話になってしまいます。そのあたりを、今日、中核機能をやっていきますっていうのは何の数で数えますか。中核機能の活用ってすごく難しく、大変なことです。だから、何が起こるのかってことを、グループワークでいろいろなアイデアを出していただきたい。これは参加型評価ワークショップと言います。今日はプレ調査ということで位置付けて実施していただきたいと思います。正式なご依頼は来年度新たにさせていただいて、今日は、実際これができるのかというところで、ご協力いただきたい。6 ページの組織図を見てください。10 ページの資料は、Q-SACCS という表で、これを見れば入間市の状況がわかります。大事なものはこの表を埋

発 言 者	発 言 内 容
	めるということではなく、入間市には発達障害専門に見ている病院はないけれども、相談できるって所は多い等、資料の11ページにあるような強みの様なものを出しきれてないと思うので、この後、ワークで入れていただければと思っています。当然課題もあります。資料の13～15ページあたりも国のポンチ絵で、相談支援とか中核的なんて言われている内容です。あと委員の皆さんにA3判でお配りしている資料ですが、これは前回の会議録を分類したものです。結構空欄の部分があります。なんでこれ少ないのかな。少なくてもいいのかなと。どこにどうなっているのかなっていうことを見てもらえばいいかなと。ういずの職員に、それぞれの現在の仕事について、見ていただいています。あとういずのリーフレットを見て、ういずの職員、どのぐらいの人数でこんなことしているのかということ念頭に置いた上で、今後の中核機能について考えていただけるとよいと思います。18ページの資料を見て、中核機能ってなんだろう。アウトプット、アウトカムは何だろうと。委員の皆さんには、ワールドカフェ方式でグループワークをしていただきたいと思いますので、資料を少し変えました。ラウンド1、ラウンド2、ラウンド3とありますが、時間が短いので立って行います。書いてもらう事もありますので、10分～15分間でそれぞれ検討していただきたいと思います。大事なのは、カフェエチケットの「問いに意識を集中して話し合しましょう。」ということです。ここで問いというのは「中核機能」で、ういずの中核機能は何かということです。それを考えていただいて、それについてそれぞれの委員の考えを積極的に文字で書いたり、絵を描いたりしてください。ただ、多くの人に関わらな話をいただきたいので、話は短く簡潔に、アイデアをつなぎ合わせるっていうこと、人の話に耳を傾けることが大事です。そんなようなことで進めていきたいと思っています。資料がたくさんあるのですが、そのような形で進めたいと思いますので、名札と資料をもって、移動をお願いします。

発 言 者	発 言 内 容
Aグループ A グループで 出された話し 合いのキーワ ード	ホスト：北澤さん ・たくさんの支援の手をつくる ・成功事例の見える化 ・子どもに関する人が笑顔でいられる ・親子が笑顔で安心して次のステップへむかえることができる ・余暇 ・レスパイト ・ネットワーク ・子どもも親も支援者も誰かに相談できる ・他課とともに PDCA 子どもたちに関わる機関のハブとなる役割 ・はざまをうめる役割 こどもたちの発達を支援することを考え続けることができる組織 ・インクルーシブ 知らない不安、特別な支援 ・いろいろな個性のある子どもたちと比べてしまう事が多い。自由に生きていることが楽しいと思えるようになってほしい ・抱え込まない仕組み 将来の希望が持てる ・出生から天国までどんな子どもも親が安心して育てていかれる入間市 途中から支援が必要になってもスムーズに支援をしてもらえる：安心感、幸福感 ・うまくいかなかった場合、どうだったか。次へ生かす Aグループのまとめ
	

発 言 者	発 言 内 容
Bグループ Bグループの話し合いのキーワード	Bグループ ホスト：関委員 ・ 中核の意味 一つの施設で何をどう進めるか ・ 児童理解、支援目標がういず、学校で一致共有されているか ・ 保護者の周知、理解を図る 障害・発達の遅れ ・ 保護者の満足度 希望と欲望 短期と長期 ・ 巡回での助言が現場で実行できるか ・ 障害への無理解 研修が身についていない保育士・教員 ・ ういずでの支援が保護者の障害理解に役立っているか ・ 学校での支援に引き継がれているのか ・ 教員の専門性の向上に役立っているのか ・ 研修 連携 自己研さん 広報 書類を減らしたい ・ 小中学校は、障害のお子さんと分けて教育することはあまりよくない ・ 支援学級は全ての小学校にある 職員に対応力があるかは別 ・ 個別の支援計画・教育計画はいかされているか 振り返る機会をつくる ・ 職員・支援に関わる方の方向性を同じにする
Bグループ	Bグループのまとめ 

発 言 者	発 言 内 容
Cグループ Cグループの話し合いのキーワード	Cグループのホスト：中澤さん ・児童発達支援センター総合的窓口 ・早期発見、気付き ・正しい知識の普及・啓発 ・情報共有の難しさ ・現場を育てる ・研修 ・医療機関 ・司令塔 ・解決の糸口、方法 ・クリエイティブな発想 ・個人にだけ注目するのではなく家庭や関係する期間をつなぐ・点火する ・子どもの居場所づくり ・アクセシビリティとエクステンション ・それぞれの機関の点をつないで面にしていく ・現場で解決できる。現場力の向上を支える ・相談が増えればいい：増えている理由の分析
Cグループ	Cグループのまとめ 

発 言 者	発 言 内 容
関委員 Cグループの 発表 平岡委員	それではどんな話が出されたか、発表をお願いします。 Cグループでは、エクステンション機能という所で一番話が盛り上がりました。今現在あるものをどうつなぐかというところを中核機能として担っていくとよいのではないか。あるものをつなぐことで、明日から子供たちが輝くところに繋がるのではないかなというようなお話がとても印象的でした。
関委員 Aグループの 発表 並木副会長	これ、いけそうですね。だって、今あるものをつないで、つないだ数を数える。それが子供の笑顔につながり、子供の笑顔が増えていく。 皆さんから出てきたワードとしては、「笑顔」「安心」「幸福感」こういったものを子供たちが感じられる、また親御さんも感じられるような、入間市になってもらいたい。そういった意味では、この抽象的な言葉をどの様に具体化して、数値化するのか、検討が必要ですが、そういったものの方向性が見えてくれば、評価ができるし、今後の計画も立てられるのではないかなというようなお話がありました。Cグループのエクステンションに繋がる話ですけども、子どもには医療とか、教育、福祉、また児童福祉も、いろんな機関が関わっていますので、子どもや保護者に関わっている支援者同士が繋がってなければうまくいかないの、官民共同、そして子ども支援部だけでなく、他課も含めたPDCAサイクルをぜひ回していただきたいというご意見がありました。
関委員 Bグループの 発表 桂川先生	ありがとうございます。PDCAサイクルは残るものですので、回し続けることが大切です。 やはりういずと家庭と学校、地域の保育園とで、いろんな理解を一致させて、1つの方向を向いてやっていくということ。いろんなシート作りも大事ではないかっていう話も出ました。また大きなところでいうと、全体の障害への理解というものが1つキーワードとして、ここに繋がる前にこういう所にいけば良いってということについても、障害に対する知識がないのでどこに行っても何してもらえばいいのかという所に繋がらないっていう事もある。中核機能ということでいうと、職員数が限られていることを考

発 言 者	発 言 内 容
関委員	えると、ここでやっていることを現場でちゃんと理解して現場で使える人が増えていくことが大切で、現場の先生方の研修であるとか、現場の先生方がさらに障害に対する理解を増やしていくことが必要だけど、学校の先生は忙しくて研修時間がないという話をしました。来た方の満足度を上げていくことはすごく大事だけど、受け入れられる数に限りがあるっていうことを考えたときに、どうすればいいのかと考えると無料でやる部分と、ある部分からは有料にしていくとかってそういうような方策もあるのではないかな。無料と有料のところでちゃんと繋がって情報共有していくっていうことができるという良いものではないか。あるいは、短期的な満足度だけだと、これやって欲しいあれやって欲しいみたいになってしまうので、長期的に1年間来てよかったとか卒業まで関わってもらってよかったと思うというような、短期と長期の満足度っていうことを分けて考えることが大事なんじゃないかっていう話がありました。 ありがとうございました。 うちのグループの所で1つ話が出たのは、前回の議事録にも載っていてびっくりしたのですが、「学校はういずを知らない。」「周知がもっと必要じゃないか。」みたいな話が出ていました。家庭に名刺を配れば分かってもらえるという事ではないので、やっぱり関わらないといけないのだと思います。そういったところを行った上で、どこの市町もこれが達成されているか、されていないかって明確に出してないのが課題だと思います。それは社会事業大がずっと研究している事だと思いますが、そこを参考に筑波大の小沢先生がやろうということで、今日、プレで皆さんにご協力いただきました。一応予定としては杉並とか川崎とか、あと笛吹市とか、その辺りもこういった形で、大事なものは、「現場だけで考えない」「行政だけで考えない」「それに専門職も入る」「一緒に計画を立てていきましょう。」「きちっと数を数えましょう。」それが何のための数なのかっていうのを考えていけば、もう少し行政が何しようとしているか、一般市民の方にも周知され、利用しやすいいういずになっていくと思います。今年度が

発 言 者	発 言 内 容
越智会長	終わったのであと2年研究が続くのですが、またちょっとご協力いただくようなこともあるかもしれませんが、今日は貴重なお時間をいただきました。本当にありがとうございました。
越智会長	今日は、なんかとても楽しかったし、自分が思い描いているものを言葉にしていく作業がすごく必要なのだと思いました。機会があれば、またやれたらいいと思います。どうもありがとうございました。 それでは、今回のグループワークで出された課題を次期計画策定の参考としてください。予定されていた議事は以上です。それでは、すべての議事が終了しましたので、議長を降ろさせていただきます。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。
事務局	越智会長には議長を務めていただき、ありがとうございました。委員の皆様、様々なご意見ありがとうございました。 今回のグループワークの応援をしていただきました関委員。Aグループでホストを務めていただきました、社会福祉法人相模原市社会福祉事業団の北澤様。Cグループでホストをしていただきました、社会福祉法人神奈川県総合リハビリステーション事業団神奈川県リハビリテーション病院の中澤様。どうもありがとうございました。今回、グループワークで出されたものを次回、次期の計画策定の参考とさせていただきます。本日、来年度の事業計画を配布させていただきました。方針や体系図は変更ありません。各事業は日程が未定なものもありますが、今年度と同様に行う予定です。また、次期事業計画策定に向け、国立障害者リハビリテーションセンターとの研究の一環で、他市の取り組みを調査研究しています。来年度の運営協議会で報告できればと思います。 各委員から何か確認やご報告はよろしいでしょうか。（特になし） 今回を持ちまして、今年度の運営協議会は終了となります。また、皆さまの任期は令和6年6月30日をもって満了となり、次回は来年度の7月頃を予定し、新しい委員の選出に伴う委嘱を行う予定であります。 皆さまには、昨年度よりご協力いただきありがとうございました。今後

発 言 者	発 言 内 容
	とも入間市の児童発達支援について、お力添えをお願いいたします。 それでは、並木副会長から閉会のご挨拶をお願いします。
並木副会長	皆様、長時間に渡る協議、大変お疲れ様でした。今回の協議会をもって、今の委員の皆様も任期が切れるということを伺いましたので、この2年間、大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今日のグループワークを通して、本当に子供たちのことを考えている方が地域にいっぱいいるのだということを改めて確認ができました。民間事業者の方、こども食堂ですとか、学習支援をされている方、子供たちの発達をサポートしたいと考えている方は、地域にいっぱいいるんですね。そういった人たちがまだ点々になっているような状況もありますので、こういった方々のネットワークを組んで、行政の皆様と一緒に取り組んでいけたら、少しでも子供たちをサポートできるのではないかなと常日頃思っております。こども支援部の皆様からは、ういずが地域の関係機関の取りまとめができるとよいのではないかとといった方向性を目指していきたいという言葉いただきましたので、大変頼もしく思いました。体制ができたとしても、実際にはそこの体制に携わる人々の意識とか、力とかが実際には必要になって、本当に機能していくかどうかが問われていくと思いますので、ぜひ支援者同士、関係者同士、お互い支え合いながら、よりよい子供たちのサポート体制を作っていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。
事務局	それでは、これで、令和5年度第3回児童発達支援センター運営協議会を閉会します。ありがとうございました。

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 6 年 6 月 21 日

議 長 の 署 名

越智 恵子

議長が指名した者の署名

山川 さおり